



研究部会報告

●意思決定とOR●

・第7回

日時：平成7年7月29日(金) 12:30~16:30

参加者：25名

場所：金沢学院大学2号館5F 251講義室

テーマと講師：(1)「記録値について」

松本義久(姫路獨協大学経済情報学部)

1次元の連続型母集団分布からの、大きさ n の無作為標本に関連して定義される記録値統計量の系のなかで、記録値の個数や記録時点については比較的よく論じられている。本報告では、記録値そのものについての諸性質を考察し、その同時分布を与えた。

(2)「会計学における学際的研究」

徳前元信(金沢学院大学経営情報学部)

会計情報システムは、その固有の特徴である「責任ある報告」が、「情報の非対称性」「利害の不一致」を原因として、会計数値を単なる「数値」以上のものに変質させる。その会計情報をもとに、経営者や組織は評価づけされるため、彼ら自らが「会計情報」に影響をうけるという相互作用の事例を例証した。フォーコーに着想を得たアプローチを用い、「のれん会計」の混乱を上記の相互作用をもとに分析している。

(3)「企業組織とagency理論について」

前田隆(金沢大学経済学部)

本報告では、企業組織における経営者と労働者との雇用関係を依頼人・代理人(principal-agency)関係と考え、両主体の間に成立する最適な労働成果・賃金体系の特徴づけを行なった。経営者が労働者の努力水準を完全に観察できる場合には、経営者が危険中立的であれば、労働成果・賃金体系は労働の成果とは無関係に一定の水準に設定されることが最適であることが示された。すなわち、企業活動の不確実性に伴うリスクは経営者がすべてを負担することが最適である。

他方、経営者が労働者の努力水準を完全には観察できない場合、最適な賃金体系は労働の成果に比例することが示

された。すなわち、経営者と労働者の両者で不確実性に伴うリスクを分担することが最適である。さらに、労働者の監督業務に伴うコストと最適な企業規模の関係が紹介された。

(4)「ファジィ商品選択支援システムについて」

中島信之, 醍醐元正(富山大学経済学部),
般若裕子(コスモネットワーク)

商品選択システムは、データ検索機能と意思決定支援機能を併せ持つシステムであり、その構築にあたっては、2つの機能を併せ考慮する必要がある。著者らは、いくつかのシステムを通観しながら、ファジィ理論を用いた設計法を中心にシステムの設計について論じた。

●動的計画法●

日時：平成7年9月25日(月) 18:00~20:00

場所：日科技連

テーマと講師：

「辞書式最適基とポセットグリードイド」

岩村覚三(城西大学)

劣モジュラシステム多面体に対する重み付け辞書式最適基を求めるグリーディアルゴリズムを提出した。求めるアルゴリズムの計算量が $O(n|D|)$ であり、 $p(>1)$ 次目的関数 $\sum_{i=1}^n \frac{x_i^p}{w_i}$ の最大値(ポジティブ劣モジュラシステムに対しては)を与えること、Morton, Von Randow and Ringwald(1985)の第一問題に対する解法に一致する(D がポセットグリードイドのとき)ことを示した。

Expansion, Contractionに対して重み付け辞書式最適基が定数倍変更によって求められることも示した。

最後に、このグリーディアルゴリズムがDPとして再定式化可能かどうかを論じた。

日時：平成7年10月23日(月) 18:00~20:00

場所：日科技連

テーマと講師：

「単調規則のもとでのマルコフ連鎖に対する多変量停止時刻問題」

安田正実(千葉大学)

単調規則を導入した多変量停止時刻問題について、均衡戦略および最適方程式を議論した。従来のゼロ和や非ゼロでの問題の拡張となっている。特に2変量の場合を具体的な例により説明した。